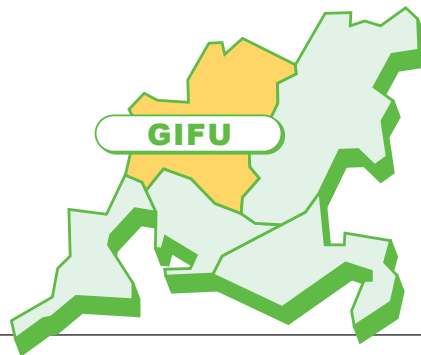


中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

“信長公ゆかりのまち・岐阜市”をブランド発信(岐阜市信長公450プロジェクト)

1. 岐阜市信長公450プロジェクトとは

1567年に織田信長公が当時の稲葉山城に入城し、地名を「井口」から「岐阜」と改め450年。

岐阜市では2017年を特別な1年として、多数のイベントを開催。「信長公ゆかりのまち・岐阜市」を全国にブランド発信し、誘客数200万人を目標に、活性化へとつなげる取り組みを行っている。

信長公は冷徹非道、戦上手、改革者、破壊者等のイメージで語られるが、岐阜の町を拠点に天下統一を目指し戦いを進める一方、城の山麓に「地上の楽園」と称される宮殿を建設。さらに城を「魅せる」という独創性を加え、岐阜の城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげた。

意外にも岐阜城やその城下で行ったのは手厚いおもてなしであった。戦国時代に信長公が文化の力で多くの人々を魅了した「おもてなし」を現代に蘇らせ、新たに多くの人々を魅了しようとする通年のプロジェクトの一部を紹介したい。

2. 信長公はいかに人心を掴んだか？

(1) 信長公ギャラリー・・・地上の楽園を体感

450プロジェクトのメイン事業の一つが7月から12月に「ぎふメディアコスモス」にて無料で行われる、CG映像で信長公居館を再現した「信長公ギャラリー」だ。ポルトガルの宣教師ルイス・フロイスが信長公に招かれ、おもてなしを受け「地上の楽園」と称した居館を資料で体験できる。



(2) 野外幻燈・・・幻想的なライトアップを体感

信長公が日本で初めて松明などでライトアップを行ったことにちなみ、岐阜城周辺をライトアップし幻想的な空間を創出。岐阜城から360度の景色を見渡すイベント「岐阜城パノラマ夜景」と連携し、周囲に幻想的な光の世界を展開。



(3) 信長おもてなし御膳・・・料理を体感

信長公が客人をもてなした料理を現代風に食べやすくアレンジした「信長おもてなし御膳」*を長良川の温泉旅館4館で年間を通じて提供しており、「信長公のおもてなし」が味わえる。



*「信長おもてなし御膳」提供旅館：
ホテルパーク、鶴匠の家 すぎ山、岐阜グランドホテル、十八楼

3. 文化が根付く岐阜市へ

岐阜市信長公450プロジェクトが、「信長公ゆかりのまち・岐阜市」をブランド発信し、450年の時を経て、さらに多くの人々を魅了しようとする取り組みに注目していきたい。

文：岐阜担当 井川 佳明
取材協力・写真提供：岐阜市信長公450プロジェクト推進課、
岐阜長良川温泉旅館協同組合